

令和 6 年度 富良野市廃棄物減量等推進審議会 議事録

日 時 令和 6 年 7 月 2 日（火）午前 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 0 0 分

場 所 富良野市複合庁舎 会議室 B

出席者 〈委員〉

佐藤健治、高橋穰二、鎌田勲、渡辺寛子、狩野洋子（5 名）

〈欠席委員〉

寺島聡、井出紳也、関野孝子、小野裕史（4 名）

〈事務局〉市民生活部長 北川善人、環境課長 高橋秀文、
環境係長 山岡鶴生

1.開会（進行：高橋課長）

2.市長挨拶

廃棄物の減量という事ですが、大きくとらえれば環境、ゼロカーボンを含め、世界的に大きな取り組みになっている。富良野市は SDG s を宣言はしていないが SDG s に準じた取り組みを行っていく。SDG s は 17 の目標を掲げた取り組みであるが、廃棄物の再利用といった文言はない、しかしキーワードになる物は含まれている。

大きな話題になるが、海洋プラスチックは、年間 800 万 t ものプラスチックごみが海に漂い、それが細くなり魚が食べ人間への環境にも大きな影響になっている。くわえて食品ロスになるが、いま農業の取組として「食料・農業・農村基本法」が改正となり、食糧担保も含め食料を届こうることなく供給できるよう体制と生産に関わる取り組みが国会で決定した。

全世界の食料の生産量の 3 分の 1、約 13 億 t が廃棄されている。日本でも 600 万 t の食品ロスが出ている。「食料・農業・農村基本法」の中でも食料の重要性がうたわれているが、この事も含めて我々は真剣に取り組んでいかなければならない。

富良野市としては 14 種分別しいていただいている中で廃棄物の減量化の取組が進んでいる。大きく言えば 3R「リデュース・リユース・リサイクル」も市民のみなさんに協力いただいている。

循環型の社会を構築していくうえで、分ければ資源という事で環境に配慮した取組を進めていく。

3.佐藤委員長挨拶

先月、宮崎の処理工場を視察に行ってきた。そこは太陽光パネルを分解し、工業鉋物を取り出している。シンプルな機械だがパネルのガラスとシートを分離し、シートを別施設で重要金属に分けている。太陽光パネルの寿命が15年位と言われていて、これから5年先には多くの太陽光パネルの廃棄が出てくるとの事で話を聞いてきた。

以降、佐藤委員長が進行

4.議事 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要について

事務局より説明

(高橋委員) 11 ページのリサイクルセンターの施設見学が去年の倍以上になっているが、大きな変化があったのか。

(事務局) コロナの制限が解除になったのが要因と思われる。内訳として市内の小中学校等10件224名、道内3件55名、道外2件19名、海外2件4名となっている。

(高橋委員) 委員も変わってきているので施設見学を行ってはどうか。

(事務局) 環境課で事務局を持っている「ふらの市民環境会議」あり、その行事の中に施設見学会というものがある。今年は沿線でごみの広域処理を行っている施設を見学する方向で考えているので、日程等決まれば委員のみなさんにもお知らせする。

(高橋委員) 資源回収ステーションの数について今後どう考えているのか、また、ビンポスの老朽化について更新計画はあるのか。

(事務局) 人口は減っているが世帯数は微減である。アパートの件数が増えてきて、それに伴う資源回収ステーションが増えている状況にある。ビンポスについては現在こういった形状の物が良いか検討している。

(高橋委員) リサイクル率が平成27年以降90%切っている状況になっているが何か要因はあるのか。

(事務局) 93%あったところから3%ほど落ちているが、平成13年から平成18年はセト・ガラスのリサイクルに取り組んでいたが、なかなか商品としての取組は敬遠され、現在は埋立処理となっている。

(高橋委員) 21 ページの埋め立て処分場の残容量の数字は載っているが、率にしたらどの位になるのかパーセントで載せていると分かりやすいのではないか。

(事務局) 平均で毎年 500 m³埋め立てしている単純計算であと 5 年位と考えている。近い将来測量を行い正確な数値を入れていきたい。

(鎌田委員) 一般家庭から出るごみについて、分別の不適切な残されているごみは少なくなっていると思うが、そういったごみの数は押さえているのか。

(佐藤委員長) 学田は酷いですよ。ごみ袋種類に問わず未分別でシールを貼られて置いて行かれている。町内会の当番で分別して出しなおしている。

(事務局) 町々で地域差はある。警告シールを貼っているデータは町内会ごとにある。

5. 審議会終了後、使用済み紙おむつのリサイクルについて施設見学。

北清ふらの株式会社敷地内、栗田工業の実証試験施設